

(株)宏和が毎月お客様へお役立ち情報をお届けします。

コウワノノ

MONTHLY NEWS LETTER Vol.26

2017
11
November

会社の歴史を残す 社内報・広報誌の電子化 (スキャニング)

少し業歴の長い会社では、社員向けの広報誌（社内報）を定期的に発行している会社も結構あります。「最近のものはデータがあるけど、昔のものは紙保管」という場合が多いようです。そんな紙の社内報をスキャンして電子化しておく、会社の歴史の保存になり、周年記念の時などに有効利用できます。



お気軽にご相談下さい。



株式会社 宏和

東大阪市長田東 1-7-22 TEL 06-6789-2313 FAX 06-6789-2339

<http://www.d-kowa.co.jp/>

<http://scanning.jp/>

オンデマンド印刷 会社案内、パンフレット、チラシ、名刺、カード、封筒、シール、伝票、表彰状
冊子印刷 取扱説明書、カタログ、記念誌、広報誌、報告書、論文、自分史
電子化業務 紙文書・紙図面スキャニング(電子化)サービス、データエントリー(入力)、データコンバート
CAD業務 CADデータ出力、CADデータ入力(トレース・設計)、電子納品データ作成
コピー・製本 大判コピー、カラーコピー、各種製本、ラミネート、パネル・看板制作
その他 人材派遣、人材紹介、マイクロ撮影、マイクロフィルムスキャニング、WEB制作

コウワノノ

11

Vol.26

発行者：株式会社宏和
所在地：〒577-4001 大阪府市長田東 1-7-22 TEL 06-6789-2313

(株)宏和



少し前に、大阪が「急成長渡航先ランキング」で2年連続1位になったというニュースを見ました。2位は中国の成都、3位はスリランカのコロomboで、東京は6位でした。大阪のインバウンド旅行者数は7年間で4.5倍になり、昨年度大阪府を訪れた外国人観光客数は941万人です。(大阪観光局調べ) 実には大阪府の人口(883万人)以上の人が海外からやってきたことになります。もはや大阪の経済を下支えしていると言っても過言ではないように思います。

代表取締役 日笠宏昭

将来の大阪の可能性 「中之島」は大阪の中心になっていくのか？

～最近何かと話題の多い中之島特集です～

News まずは最近のニュースから拾ってみましょう。

- 2017.2 大阪市は中之島の市有地に、2021年度中に開館を目指す新美術館の設計業者を「遠藤克彦建築研究所」に決定したと発表した。構想から34年を経て実現へ動き出す。
- 2017.3 中之島に完成した高層ビル「中之島フェスティバルタワー・ウエスト」の竣工式が行われた。5年前に開業し、フェスティバルホールなどが入る「中之島フェスティバルタワー」と合わせた「フェスティバルシティ」が4月17日、まち開きする。
- 2017.5 大阪の中心部から閑空へのアクセスルートとなる「なにわ筋線」。計画実現に向けて、大阪府・大阪市・JR西日本・南海電鉄・阪急電鉄の5者は2031年春の開業を目標に早期の事業化を目指すことで一致したと発表した。
- 2017.7 中之島の市有地に再生医療の国際拠点を設ける構想について、大阪府・市は、iPS細胞に加え、ゲノム（遺伝子情報）医療やAIなど最先端の医療技術を活用する拠点にする基本計画の素案を公表した。
- 2017.7 京阪電鉄の中野道夫社長は、中之島線の延伸ルートについて、大阪市地下鉄に九条駅で接続させる案を検討することを明らかにした。



中之島まちづくりコンセプト

【中之島6丁目】



完成間近な55階建高層マンションザ・パークハウス中之島タワー

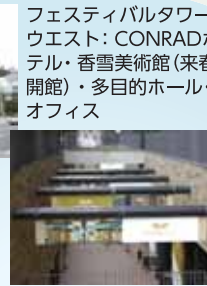
【中之島2・3丁目】 中之島フェスティバルシティー



フェスティバルタワー：フェスティバルホール・オフィス



ショップ / レストラン



フェスティバルタワーウエスト：CONRADホテル・雪香美術館（来春開館）・多目的ホール・オフィス

【中之島4丁目】



大阪市立科学館（左）と国立国際美術館（右）



北側の市有地 新美術館・再生医療の国際拠点建設を計画予定

【中之島5丁目】



インバウンド需要が好調で建替えを延期した築50年のリーガロイヤルホテル



川沿いの商業施設中之島BANKS



連絡する線がなく孤立している京阪中之島駅

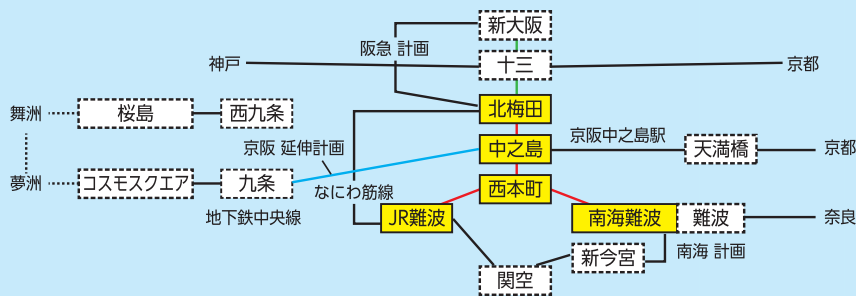


大阪府立国際会議場 世界標準のMICE(*1)と比べると小規模で中途半端な施設

夢洲へのIR誘致の行方、リーガロイヤルホテルの建替え計画など未決定要素もあり、また労働力不足という国家的課題にも直面していかなければなりません、今の小学生が大人になるころには、「中之島」がキタ、ミナミに次ぐ一大拠点になっているかもしれません。



このように、今「中之島」があらためて注目されています。中之島まちづくり構想は、2012年頃から策定されてきましたが、4月の「フェスティバルシティ」開業を機に本格的に動き出した状況です。インバウンド訪日客が引き続き好調なこと、IR（カジノを含む統合型リゾート）、2025年の万博を夢洲に誘致しようという動きと合わせて、「中之島」がキーポイントになっています。なぜでしょうか？位置的に考えると、「中之島」がこれらすべての構想の中心（へそ）になっている、ということが大きな要因のように思います。



2031年開業予定で動き出した「なにわ筋線」計画ですが、各社の思惑は下記のように報道されています。

- <阪急> 北梅田と十三を接続→閑空の外国人旅行者を阪急沿線の京都・神戸へ誘導
- <JR西> 新大阪・梅田—閑空の時間短縮で外国人旅行者を取込む（閑空-北梅田 最速40分）
- <南海> 悲願の梅田進出を果たす（ラピートを北梅田へ）
- <京阪> 2008年開業以来、8万人/日の目標を大きく下回る（2.8万人/日）中之島線のテコ入れ（大きな原因は中之島駅が他の線-特に南北の線と連絡していないこと）

～ひとくちメモ～

MICE(*1)とは、Meeting（会議・研修・セミナー）、Incentive tour（報奨・招待旅行）、Convention または Conference（大会・学会・国際会議）、Exhibition（展示会）の頭文字をとった造語で、ビジネストラベルの一つの形態。参加者が多いだけでなく、一般の観光旅行に比べ消費額が大きいことなどから、MICEの誘致に力を入れる国や地域が多い。（JTB観光用語集より）